

科目名 クラス 講義区分	曜時
世界市民ー移民とその文化 <春>	火4
<div>【教員氏名】 日下 隆平</div> <div>【単位数】 2 単位</div> <div>【講義・演習概要】 いつの世にも様々な理由で移民は生まれています。この授業では、特に19世紀から20世紀初頭までの移民を、アメリカとイギリスを例にして移民による文化をみてゆきたいと考えています。移民たちによる芝居や歌などは故国を偲ぶ方法でもあった。</div> <div>【学習目標】 移民の背景には、宗教、政治、そして飢饉などの要因がある。この授業ではこれらの移民がもたらした文化を考えることで、単一的な日本からでて世界市民となる最初の一步としたい。</div> <div>【講義・演習計画】 第1回：導入ー授業の概要と成績評価について 第2回：イギリスにおける移民：19世紀と現代 その 1 第3回：イギリスにおける移民：19世紀と現代 その 2 第4回：新大陸への移民 第5回：新大陸への移民 第6回：アメリカ ー旧移民と新移民 第7回：German Immigration 第8回：The Italians 第9回：アイルランド移民ーアイルランドの歴史 第10回：アイルランド移民ー移民の歌 第11回：アイルランド移民ー移民の歌 第12回：Jewish Immigration 第13回：アシュケナージとスファラディム 第14回：アメリカの移民文化 第15回：まとめ</div> <div>【成績評価の方法】 試験評価：50％ 出席：50％ 毎時間、資料を配付します。資料はほとんど英語資料ですので、事前学習が必要です。一方通行にならぬように、資料は受講生にも読んでもらうことになります。そのため、出席点の比重を大きくしています。</div> <div>【参考文献】 ナンシー・グリーン著『他民族の国アメリカ：移民たちの歴史』 『ユダヤ・エリート』中公新書</div> <div>【準備学習の指示】 毎時間、資料を配付します。資料はほとんど英語資料ですので、事前学習が必要です。</div>	

科目名 クラス 講義区分	曜時
世界市民ーリトル東京とチャイナタウン <秋>	火2
<div>【教員氏名】 串田 久治</div> <div>【単位数】 2 単位</div> <div>【講義・演習概要】 「世界市民（コスモポリテース）」とは、国家や民族などの枠をこえて、普遍的な理性をもつ人間という意味で、今から二千数百年前のヘレニズム時代に生まれた人間観である。「今、なぜ世界市民を考えるのか」、この問いを解く鍵がチャイナタウンにあると考える。本講義では世界中に根を張る中国人のコミュニティー（チャイナタウン）を調べて、その功罪を考えながら、21世紀の「世界市民」を考える。</div> <div>【学習目標】 本講義は書物から学ぶものではない。問題意識を持って自分で調べ、調べたことを発表し、それについて議論し、人の意見に耳を傾け、そして自分の頭で考え、その考えを整理することが目的である。具体的には、最初に班分けをし、班で相談して対象国（地域）を決める。しばらくは個々人で調べて発表するが、班でパワーポイントにまとめて発表するので、思考能力・分析力・文章力・プレゼンテーション能力を高めることができる。</div> <div>【講義・演習計画】 第1回：オリエンテーション ・今、なぜ世界市民なのか？ ・チャイナタウンとは？ ・なぜ「リトル東京」なのか？ 第2回：世界のチャイナタウン（Ⅰ） 第3回：世界のチャイナタウン（Ⅱ） 第4回：調査研究・発表とディスカッション。 ただし、受講生数・ディスカッションの白熱度により変更あり。 第5回：調査研究・発表とディスカッション。 ただし、受講生数・ディスカッションの白熱度により変更あり。 第6回：調査研究・発表とディスカッション。 ただし、受講生数・ディスカッションの白熱度により変更あり。 第7回：調査研究・発表とディスカッション。 ただし、受講生数・ディスカッションの白熱度により変更あり。 第8回：調査研究・発表とディスカッション。 ただし、受講生数・ディスカッションの白熱度により変更あり。 第9回：調査研究・発表とディスカッション。 ただし、受講生数・ディスカッションの白熱度により変更あり。 第10回：調査研究・発表とディスカッション。 ただし、受講生数・ディスカッションの白熱度により変更あり。 第11回：調査研究・発表とディスカッション。 ただし、受講生数・ディスカッションの白熱度により変更あり。 第12回：プレゼンテーション（Ⅰ） ただし、受講生数・ディスカッションの白熱度により変更あり。 第13回：プレゼンテーション（Ⅱ） ただし、受講生数・ディスカッションの白熱度により変更あり。 第14回：プレゼンテーション（Ⅲ） ただし、受講生数・ディスカッションの白熱度により変更あり。 第15回：総括</div> <div>【成績評価の方法】 班ごとに活動するので、欠席・遅刻しないことが大前提となる。 出席・レポート・プレゼンテーション・ディスカッションへの積極性などにより総合的に評価する。 また、毎回小レポートの提出が義務づけられ、小レポート提出不良者はプレゼンテーション参加資格を失う。</div> <div>【準備学習の指示】 特にないが、必要なときはその都度指示する。</div>	